

**「京都府食の安心・安全行動計画（中間案）」に対する  
府民からの意見の要旨及び計画（案）への反映**

パブリックコメント実施機関：平成18年10月16日～11月15日

府民意見交換会：南丹振興局 10月25日（19名参加）

山城振興局 11月2日（28名参加）

中丹振興局 11月7日（19名参加）

丹後振興局 11月9日（20名参加）

寄せられた意見：53件（ファックス、メール等 10件、府民意見交換会 43件）

	項 目	意 見 の 要 旨	計 画（ 案 ） へ の 反 映
1	計画全般	<p>食への不安が渦巻いている中で、このような行動計画が策定されるのは、大変すばらしい。</p>	
		<p>所管する部署がまたがる安全への取組を一つの計画に取りまとめ、推進していく方法は、見習うべきところが多い。</p>	
		<p>具体的な内容の行動計画であり、目標の設定も含めて一定の説得力がある。</p>	
		<p>この行動計画が、消化すればよいという形だけの目標達成にとどまることなく、内容のあるものになることを望む。</p>	
		<p>多くの府民に対して、この計画を具体的にどのように伝えていくのか考えてほしい。</p>	
		<p>行動計画が府民の総意と参画で作られることに期待。</p>	
		<p>計画内容の取組を行った結果、どれくらい食品が安心・安全なものになったのかを数値等で分かるようにしてほしい。</p>	
		<p>数値や、検査による基準値だけに頼るのはどうか。安心・安全は、意識の問題。</p>	
		<p>まずは安全確保が大事であり、「安全行動計画」でもよいのでは。</p>	
2	基本的事項	<p>対象機関は3年ではなく、5年でもよいのでは。</p>	
		<p>7割以上の人が安心であると考えていることを目標とすることはよいが、残りの3割の人の意見も重要。</p>	

	項 目	意 見 の 要 旨	計 画 ( 案 ) へ の 反 映
3	現状と課題	「リスクが増大」との表現には違和感があり、「リスクが多様化」しているとの表現にすればどうか。「リスクが増大」との表現は、消費者に不必要な不安を招く。	計画(案)に記載
		危険な疑いのあるものは、しっかりと排除してもらいたい。	
		残留農薬や輸入食品、遺伝子組換え食品が心配。	計画(案)に記載
4	取組全体	現状、取組目標、数値の根拠が明記されていることを評価。	
		平成18年度計画で入っていたが、本案ではなくなっているものがあり、再検討してほしい。(環境にやさしい農業に関する土壌分析、監視結果の公表、検査体制の充実等)	計画(案)に記載
		予算の関係を考えなければならないが、取組については、食品のトレーサビリティ、食品表示、それと情報公開に関する取組について重視してほしい。	計画(案)に記載
		取組については、予算を思い切って使い、是非具体化してほしい。	
		なぜこの取組が必要なのかという理由が分かりにくい項目もある。	
		取組の中には、目標の具体化がされていないものがあるが、目標設定すべき。	
5	安心・安全の基盤づくりの取組	ポジティブリスト制度が施行され、農産物の生産に向けた防除マニュアルを作成し、生産者に周知することは、緊急の課題。また、監視・検査体制をもっと強化すべき。	計画(案)に記載
		環境規範に基づく飼養管理を行うモデル農家を5件ずつ増やすとあるが、全畜産農家の何%に当たるのか記載すべき。	計画(案)に記載
		府の水産物の多くは天然物であり、これらの安心・安全を考える上で、海洋環境の改善や監視に対する府の姿勢を打ち出す必要。(例えば、赤潮の環境モニタリング等)	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討
		海の魚だけでなく、川の魚も安心であるという指針づくりが必要。	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討
		「食品製造における取組」(16ページ)の、「事業場」は、「事業所」がよい。	計画(案)に記載
		「エコファーマー」だけでなく、GAP(適正農業規範)まで要求されると、生産者にはどれだけ作業時間が増えるのか不安。	
		「安心・安全の基盤づくり」の中の「生産・製造情報の提供」による安心感向上のための取組について、「安心感向上」は「信頼づくり」に入れるべき課題ではないか。	

	項 目	意 見 の 要 旨	計 画 ( 案 ) へ の 反 映
5	安心・安全の基盤づくりの取組	生産者・事業者の品質向上対策は、「信頼づくり」の項目にも入れるべき。	
6	安心・安全の担保の取組	BSEの全頭検査は、京都府段階では、絶対に守ってほしい。	計画(案)に記載
		「家畜伝染病の防疫」イコール「食の安心・安全」ではない。	
		数値を大きくすることより、きっちりと食品を介して危害を与える家畜伝染病と人畜共通の感染症とを整理し、正しい根拠に基づいて本当に必要な情報を精査・提示してもらいたい。	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討
7	信頼づくりの取組	計画に「府民とのリスクコミュニケーション」を図る旨の表現を入れるべき。	計画(案)に記載
		現場の産地見学会などをもっと行ってほしい。	計画(案)に記載
		食品関連事業者と消費者とが交流する場づくりを市町村単位で実施することで、よりお互いの顔が見える関係に結びつく。	
		「食の座談会」は、参加者が忌憚のない意見を出し合い、生産者・事業者と消費者とが相互理解できる内容になることを期待。	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討
		他府県との連携が必要。	同 上
		情報収集に関する細則を明らかにし、食品事業者と消費者の双方が活用できるようにすべき	同 上
		一般の人に情報が届くよう、印刷物の配布も含めて広く広報すべき。	計画(案)に記載
		生産者ばかりでなく、消費者自身も学習の機会を得て、賢い消費者にならなければならない。	
		食の安心・安全に関する知識について、もっと勉強したい。	
		食育と食の安心・安全とをコラボレートし、「食に関するリーフレット」を作成すればどうか。	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討
		生活衛生室と食の安心・安全プロジェクトとのホームページを統一すべき。	
		広告ちらしだけでなく、各店がもっているホームページにも協力してもらおうべき。	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討
		風評に対する正しい情報を府のホームページで発信してほしい。	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討
自主回収情報の提供については、現在、「新着・緊急情報」の中で行われていますが、別途コーナーを設けるべき。	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討		

	項 目	意 見 の 要 旨	計 画 ( 案 ) へ の 反 映
7	信 頼 づ くり の 取 組	農水産業関係者等の代表者が会議する機会も必要。	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討
		食の情報提供は、なるべく分かりやすく。	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討
		行動計画について、府民に身近な「府民だより」へ掲載してみてもは。	
8	そ の 他	鳥インフルエンザなどの問題が起こらないようにするためには、地産地消を徹底すべき。	
		生産者が分かり、何か問題があれば責任の究明ができるシステムが望ましい。	
		府内産の農林水産物の生産性を高めるため、生産者への思い切った援助が必要。	
		食の安心・安全の問題は、未来を生きる子供たちのため、大人が取り組まなければならない問題。	
		食の安心・安全のためには、国の農業を保護し、自給率を高め、国産の食べ物の流通を進めていく必要。	
		食事のあり方について、ホームページ等で啓発してほしい。	
		生産者と消費者との信頼関係が大切。	
		食の情報について、どんな些細なことでもしらせてほしい。	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討
		食品衛生推進員に対する保健所からの情報提供をもっとしてほしい。	計画(案)に記載していないが、具体的な取組の中で検討
		安心・安全は、今では当たり前の時代。これからは食育も考えていかなければならない。	
		京都の文化は、食から。	
		飲食店などの経営者は、衛生管理の重要性を従業員に教育すべき。	
		食の安心・安全の取組は、ここ2、3年で以前と違うことは明白。	
		産地が表示されていても、本当か心配。	
		食の安心・安全について、このように前向きに取り組んでおられることをはじめて知った。	
府からマニュアル的に計画を押しつけると、生産者や販売者はついていけないかもしれない。			

	項 目	意 見 の 要 旨	計 画 ( 案 ) へ の 反 映
8	そ の 他	小規模事業者にも、食品表示をきちりしてほしい。	計画(案)に反映していないが、具体的な取組の中で検討
		安全な農作物を作るには、「土づくり」が大切。	計画(案)に記載
		食に関して、生産履歴を残しておくことは大変な作業であるが、大切なことなので、生産者の一人として実施していきたい。	